

授業科目

解剖学

担当教員名 鈴木 了	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○		

授業の概要

解剖学（ST）では、人体の基本的構造を全体的に理解し、特に発声発語器官である口腔・鼻腔・咽頭・喉頭及び聴覚器官である外耳・中耳・内耳についてそれぞれの構造と機能を理解する。さらに言語と聴覚に関する中枢神経系と末梢神経系を理解する。また、頭蓋・顔面部の発生の概略を理解し、口腔・顎顔面部の先天異常の発生を考察する。

授業の目的

医学の基礎である解剖学を、人体の基本的構造と機能、発生の観点から理解し、それを説明できる様習熟する。

学習目標

1. 解剖学、形態学とは何かを説明できる。
2. 組織を構成する細胞の構成要素の名称と簡単な機能を概説できる。
3. 主な骨、骨格筋の名称、位置を説明できる。
4. 心臓の位置、各部位の名称を言える。大循環・小循環を説明できる。
5. 消化器系、呼吸器系の諸器官、その付属器の名称、位置を説明し、その働きを概説できる。
6. 泌尿生殖器系、内分泌系を構成する器官の名称、位置、ホルモンについて説明出来る。
7. 中枢神経系、末梢神経系の構成を概説できる。
8. 聴覚伝導路をコルチ器から大脳皮質まで順にたどることができる。
9. 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭を構成する各部位の名称と機能を説明できる。
10. 外耳・中耳・内耳の構造と機能を説明できる。
11. 口腔・顎顔面部の発生の概略を理解し、説明できる。
12. 摂食・嚥下について解剖学的に説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題				学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	解剖学序論	解剖学とは	組織学総論	細胞と四大組織	講義	鈴木 了
2	骨格系	骨の構造と種類	骨の連結		講義	鈴木 了
3	筋系	筋の構造と種類	主な骨格筋		講義	鈴木 了
4	循環器系	血管とは	心臓	大循環と小循環	講義	鈴木 了
5	内臓系-1	消化器系	呼吸器系		講義	鈴木 了
6	内臓系-2	泌尿生殖器系	内分泌系		講義	鈴木 了
7	感覚器と神経系	感覚器と神経系のあらし			講義	鈴木 了
8	神経系-1	中枢神経系	伝導路		講義	鈴木 了
9	神経系-2	末梢神経系			講義	鈴木 了
10	発声発語器官-1	口腔、鼻腔、咽頭			講義	鈴木 了
11	発声発語器官-2	喉頭			講義	鈴木 了
12	平衡聴覚器-1	外耳と中耳			講義	鈴木 了
13	平衡聴覚器-2	内耳			講義	鈴木 了
14	人の発生-1	頭頸部、鰓弓の発生			講義	鈴木 了
15	人の発生-2	顎顔面部、平衡聴覚器の発生			講義	鈴木 了

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	入門人体解剖学 改訂第5版	藤田恒夫	南江堂	2012年	5,000円 +税	

参考書	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 第4版	渡辺正仁	廣川書店	2009年	5,800円 +税	
	ラングマン人体発生学 第10版	T.W.Sadler、安田 峯生 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2010年	8,820円	
	解剖学アトラス 原著第10版	Platzer Fritsch、Kuhnel Kahle、平田幸男 訳	文光堂	2012年	10,500円	
その他の資料	プリントの配布					

評価方法

態度（遅刻、私語、居眠り等）、中間テスト、期末試験によって評価する。

履修上の留意点

講義は進行状況等により内容が前後する事があります。

また講義の進行度に応じ補講を実施する事があります。

短期間で広範囲を勉強します。欠席をせず、必ず予習、復習することが重要です。

また参考書は非常に高価です。無理に購入せず、図書館等を有効に活用してください。

オフィスアワー・連絡先

○昼休み（12：30～13：00）

○その他在室時で対応可能な場合

※E217まで来て下さい